

---

# 切断愛

るうね

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

切斷愛

### 【コード】

N9593M

### 【作者名】

るつね

### 【あらすじ】

男は鋸で女の足を切斷しようとしていた……。

ああ、切られている。

狭い部屋だった。

窓もなく、一つだけあるドアも、まるで室内を外界から遮断するかのごとく、ぴったりと閉まっていた。唯一の光源である天井の蛍光灯は、時折、頼りなげにまたたいている。光に誘われた大きな蛾が一匹、かんかん、かんかんと体当たりを繰り返していた。

蒸し暑い。

男の額にも汗が浮いている。とは言え、それは暑さのせいばかりではなかったが。

部屋の中央に幅広の長机が置かれている。その上に、全裸の女が目を閉じて横たわっていた。彼女の額にも汗が浮いている。こちらも、ただ暑いからばかりではない。

床まで届く長い黒髪。整った鼻梁びりょうの下に、紅のひかれない薄い唇が引き結ばれている。閉じた目蓋まぶたがかすかに震え、それに合わせて長いまつげが揺れた。

男は荒い呼吸を繰り返しながら、鋸のこぎりを引いていた。刃は、女の右足の付け根に当てられている。切断しようとしているのだ。足を。生きたまま。

床はすでに血まみれである。男の手も、ぬるぬるどろどろと黒赤色に染まっていた。

男は何度も鋸を押し引きした。呼吸は、ますます荒い。歪んだ表情が、この世のものとも思えぬ。

やがて、男の手に伝わる感触が変化した。骨に達したのだ。  
ごりごり、ごりごり。

男は鋸を引く手に力を込める。

いつの間にか。

女が目を開けていた。

じ、と男の様子を見つめている。

少しずつ、男の手から、いや全身から力が抜けていった。

じ、と。

女は表情を変えぬまま、黒々とした瞳を男に向けている。男の動

きが完全に止まった。

「なぜ、やめるの」

「もう、もう嫌だ」

女の柔らかい詰問に、男は泣きそうな顔でつぶやくように言った。

「私のこと、愛してないの？」

「愛してるさ！」

「なら、切って」

「どうして、どうして愛している女性の身体をバラバラにしないでやいけないんだ！」

「私が、そう望んだからよ」

愛する者にバラバラにされたい。バラバラにされ、ゴミのように扱われたい。それが、女の望みだった。

理由など分らない。ただ、物心ついてからずっと、愛する者の手で身体をバラバラにされたい、という願望があった。

「一度は、あなたも承知したことでしょう」

「それは、そうしないと、僕を捨てるって言うから……！」

「ここでやめても同じことよ。捨てられなくなければ、私に愛されなければ、私をバラしなさい」

しばらく、男は硬直していた。やがて、ゆっくりと鋸の刃を、女の右足の付け根に当て直した。切断を再開する。

「そう、それでいいのよ」

優しい女の声。

それが聞こえているのかいないのか、男は呆けたような笑みを浮かべ、鋸を引く。

女は、恍惚の表情を浮かべている。痛みがないわけではない。が、その痛みを超える法悦があった。

意識が、少しずつ遠くなる。女は、それを必死で繋ぎ止めた。少しでも長く、この快樂を味わっていたい。

「ああ、愛してるわ」

女が恍惚とつぶやく。

男が甲高い笑声を上げ始めた。笑いながら、泣いていた。口の端から、よだれが垂れている。目の焦点は、どこか遠い。

「ごとり」と。

女の右足が床に落ちた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9593m/>

---

切断愛

2010年10月9日07時05分発行